

## 「神戸新聞の7日間」感想

地震だけであんなに人がなくなったり、街が一つなくなるくらいって考えただけでも怖い。地震が終わったあとも、人を助けるのも近所の人気がやったり、何日後かに助け出されたり、お風呂も入れないで何日もテントの中で暮らして、大変だしそうに不安だったんだろうなと思う。その中で早くみんなに情報を伝えようとして京都の新聞社とも協力して、新聞を作ったのを見て感動した。

## 震災に関する質問

- ・ 災害が起こったときに一番怖かったこと

今日は、ありがとうございました。  
地震のことも色々聞けて、良かったです。  
備えをすることは、大切で命に関係することが前より良く分かりました。  
ありがとうございました。

「数十年たったからこそ、成長した姿を考えると苦しい」紹介してくれた記事のこの言葉が記憶に残りました。時が解決してくれるとは言いますが、災害で何かを失ってしまった人は、時が進むごとに自分を蝕んでいくということを知りました。経験はしていませんが、この一文だけで、想像もしたくないことがあったのだと苦しくなりました。このようなことがこれから無いように、しっかりとこれからの災害に備え、そしてこんな酷いことがあったのだと伝えて行きたいです。

# 三好記者、名倉記者 感想

まず三好記者の話を聞いた感想は、同じことを何度も繰り返し言っているなと思った。具体的に、この震災を語り継ぐ必要性だったり地震が起きたとき的心情だったりを話されていて、どれも大事な内容でそれを覚えてもらうために何度も話していたかのかと思う。次に名倉さんの話は被害者としてではなく、記者として話していたなと思う。実際に震災を受けたわけではないけどそれでも色んなところ当時のことを聞いたんだろうなと思った。名倉さんの話の中である被害受けた人の話を聞いて今もまだ、苦しんでいる人もいるのかとびっくりした。

思ったことは、人が亡くなったり、危険な状況などで写真を撮ったりしていて、どんな状況でも、新聞のために写真を撮るのは可哀想だなと思いました。撮りたくない場所や場面でも、写真を取っていたので、カメラの仕事は大変そうだなと思いました。名前の由来など、聞いたことがないと思うので、聞いてみたいなと思いました。いつ地震が起きてもわからないので、防災グッズを買っておきたいなと思いました。三好記者が言っていたように、家族などと、相談して避難場所に行きたいなと思いました。

三好記者と名倉記者の話を聞いて  
震災はいつ起こるかもわからないから  
いつ起きてもいいように地震の備えな  
どをしっかりと家族と一緒に話したり  
どこへ避難するのかを話したりしよう  
と思った。

非常食などはレトルトカレーなど普段  
食べている食べ物で賞味期限が長いの  
がいいと知った。

今まで新聞を読んだほうがいい理由、新聞ノートをする意味がいまいちピンと来ていなかつたんですが映像のあるYouTubeと比べたお話で納得ができました。また、自分たちは経験をしていなくてお話を聞いて想像しただけで経験したときの本当の気持ちはわからない。けど、今後時が過ぎていくと当時経験された方のお話すらも聞けない状態になるから、本当の気持ちは分からなくともこのあとの時代にこの出来事を繋いでいくことが大切なんだと心から思いました。そして今回一番心に残ったことは、当時のことを記事にしていた人でも地震対策とかポジティブに捉えて取り組むことがあまりできないと聞いたことです。

## 「NIE講演会」の感想

自分が体験していない関東を襲った地震を取材した人たちの貴重な話を自分たちの後の世代にも伝えたい。三女を失ったお父さんの話を聞いて何も考えることがなかった。つまり自分にとって死とは重く悲しいものなのだと感じた。

私はなぐらさんの「生きているだけでいい」という言葉が心に刺さりました。普通に生きていて、自分が生きている意味を考えたことがなかったからです。防災のことも、いつか地震が来るとわかっていても、いまいち実感していなかつたと思います。今回の公演を聞いて、震災のことや、命のことについて改めて考え直すきっかけになりました。震災は理不尽で、命を簡単に左右してしまうという恐ろしさが知れました。自分もそんな経験をしたら、次の世代に語り続けるようにしたいと思うことができました。地震は恐ろしいだけじゃない。どう語り続けるかが大切だとわかりました。

わざわざ僕たちに阪神・淡路大震災のことを語っていただきありがとうございました。自分は経験していないけれど、この話を聞いて大地震の怖さがよくわかりました。

僕たちが経験しなかった大地震を経験した人の悲しみ、苦しみ、痛み、怒り、その全ての気持ちが僕の心に残りました。大人になつたらこの心に残った気持ちをいろんな子どもたちに語って行きたいです。この気持ち一生忘れません。

今回、阪神・淡路大震災の恐ろしさを教えていただき本当にありがとうございました。

今日、二人の記者の方の話を聞いて、映画でも見た通り、それ以上に怖いことが分かりました。震災を体験した人の手紙では、三女が即死したということについて、怖くなりました。このように、阪神淡路大震災では、信じられないようなことが起こったことを改めて知り、今後もこのことを次の世代の人達に、伝え続けるということは、すごく大事なことなんだとと思いました。私もなぜ、震災のことをずっと伝え続けることをしなくてはいけないのか疑問に思ったけど、今日の話を聞いて、怖い体験ながらこそ、もう二度と同じ思いをしてほしくないという被災者の思いを大切にしようと思いました。また、今回をきっかけに防災対策も真剣に考えようと思いました。名倉さんが言っていたように、無印良品など、身近なお店でも揃えれると便利なので、これから活用していきたいなと思いました。

## 三好記者、名倉記者の講演を聞いて

神戸新聞の7日間を見て、実際にそのとき記者をしていた三好記者のお話を聞いて、震災がどれだけ、人を苦しめているか改めて感じたし、日々の自分にできることをしたいなと思いました。また名倉記者のお話を聞いて、私が一番心に残ったのは娘をなくしてしまったお父さんの話です。震災がきて娘をなくすなんて思ってもいなかつたと思うし、娘さんをなくしてから、どれだけ辛かったかって言うのを聞いていて、聞いている私のつらくなりました。震災って人生を変えるかも知れないことだから、この話を聞いて改めて震災が起こったらどうするかとかを考えていこうと思いました。震災を体験した記者の人からお話を聞くってことはあまりできないことだから、講演してくださいさってありがとうございました。

## (NIE講演会感想)

今日は、「神戸新聞の7日間」を見たあとに当時のことを聞いたことで映画だけでは伝わらなかったことをたくさん知ることができました。そして一番心に残ったのは当時の体験談です。大きな揺れとともに地鳴りがしたことや爆発する音とともに窓ガラスが割れたり、などなど映画だけでは知ることのできなかつたことをしたことで地震や他の災害が起つたときのためにスニーカーをそばにおいておくや充電器の準備、どこに避難するかなどの備えを帰ってしよう！しなおそう！と考えました。そして伝えてくれたことをいとこなどにも話してやろうと思いました。

今回三好さんの話を聞いて、実際に体験しているからこそ詳しいことを知っていて映像とともに説明してくれたので分かりやすくなるほどなと思いました。地震は誰にも的確な予想はできなくて、いつ来るかもわかりません。なのでいつ来ても大丈夫なように、あらかじめ家族と避難場所を決めたりすることが大事だと思いました。私は避難バックを用意していないので、できる範囲の用意はしようと思いました。避難するときに必要なのは、飲み物や食料などだと思っていました。今回の公演を聞いてスニーカーが必要だということに驚きました。自分の部屋は自分の寝ているベットと自分を守れる机の場所が遠いのでベットで寝ていても自分を守れる物は近くにおいておき、いざ地震が起きても名倉さんが言っていたようにあらかじめ用意していたから大丈夫だったと言えるようにしたいです。今回の公演を聞き名倉さんや三好さんみたいに大勢の人たちの前で伝えることは難しいけれど、将来でき子供だったり将来に受け継いでくれそうな子供に伝えて、阪神淡路大震災の恐ろしさ、怖さ、辛さを忘れないでほしいと思いました。

三好記者と名倉記者の話を聞いて改めて思ったことは、当時の阪神淡路大震災では沢山の方々が亡くなつてご飯も食べれない状況で生活していたと言っていて本当に胸が苦しくなりました。ご飯がまともに食べられない、普通に生活ができるないということから、普段当たり前のことがとても幸せだと心から思いました。今日言っていたことを活かして災害への備えをしようと思いました。連絡が取れなくて家族と会えないということにはならないように、家族でどこに集合かを決めておいて災害に備えようと思いました。

今日この話を聞いていて改めて思ったんですけど時々自分の両親がユーチューブなどで地震の動画を見ているんですが自分も見ていて初めは「うわあー」と思つてちょっと軽い気持ちで見ているけど徐々に後半から心霊系じゃない方の怖さが来てそれが地震の動画を見ていて毎回なるから自分で「なんでこんなに怖くなつてくるのだろうか？」と疑問に思つていて今日その事を改めて思いました。そして今日話を聞いていてあかりさんの話のときに「まさか」という言葉をあまり使わないでほしいと言っていた時に自分も「確かにそうだな」と思いました。そしてその話を聞いていた時にまた自分が過去にユーチューブの動画でみた「絶対に無理と言う言葉があるから戦争がおきる」という動画を見たことがありその言葉を思い出しました。

## 感想

震災について知っていても体験したことではないから実際に体験した人の話を聞けたのはとても良かったです。今日の講演で心に残ったことは二つあって、一つは三好記者の実際に地震が起きたときにどのような状況だったのか話していましたことで、もう一つは名倉記者の地震に対する備えの話です。今日の質問で、「地震が起きたときにパニックにならないようにするためにはどうすればいいですか。」という質問が一番記憶に残っていて、普段から歩いている道で地震が起きたらどう動くのか、何かがあったときにどこへ行くのかなどを決めたり頭の中でシミュレーションしてみることが大切と言っていたので今日から試してみたいのです。南海トラフ巨大地震が来るまでの日にちは誰にもわからないからそれこそ明日来ても良いように今日の講演を活かして対策をしたいです。

今日は震災時の新聞社のことについて色々知ることができてよかったです。時々学校で大震災が起こった時に自分は5分後にどうなっているかなと考えることがあるのですが今回の講演会でまた違った視点から物事を見ようと思いました。当時、兵庫では震災はあまり起こらなかったから色々な会社が兵庫に支店をおいたりしたから震災が起こったらここまで大規模な被害になるんだなと思いました

今回の話を聞いてやはり、あらかじめ準備をするのが特に大切だと思いました。自分はまだ家族とも地震のことについて話し合ったり準備をしたりしていないので今後、家族全員で話し合う必要があると思いました。そして今後も地震のことを調べていきたいと思いました。

## 三好記者　名倉記者感想

災害のことを知っても、防災ができていなかったら意味がないと思いました。防災グッズも詳しく言っていたので、参考にしようと思いました。1つの災害で命を左右すると聞いて防災や命について考え直したいと思いました。阪神淡路大震災を経験していなくてもこれからに備えることが大切だと分かりました。1日1日を送れるという当たり前が一瞬にして壊されてしまうのでそんな風にならないよう身の守り方を学んだり避難場所を決めておくなど今できることをやりたいと思いました。数秒後に地震が起きたという想定で考えるときも変な自信で安心したりせずにどういう行動が1番良いのかやしてはいけないことなど知っておいて実際に災害が起きても冷静に動けるようにしたいです。いつ地震が起きても困らないように対策、防災をしたいと思いました。

今までこの震災について、被災した人の気持ちや状況をあまり考えて来たことがなかったので、今回の講演で、当時の被災者の気持ちやどのような状況だったかを深く知ることができました。三好さんのスライドでは当時の写真が多く、今はきれいな神戸の街が震災でとても荒れていって、災害の規模の大きさを知れたし、名倉さんの話では、同じ年くらいの方もたくさん命を落としていて、自分ももしかしたらこの先の災害で命を落してしまうかもしれないと思うと、日頃から備えたり、毎日を大切にしていくことの大切さを知ることができました。家族が離れてしまったときにも集合できるように、帰ったら家族と話しあって備えについて考えていこうと思います。いつ起こるかわからないのが災害の恐ろしさなので、これから、日頃からできる備えをしていきたいです。

## nie講演の感想

名倉記者と三好記者の講演で、印象に残ったことは、名倉記者が取材した男性の話です。三女が、土壁の下敷きになつて、声をかけても、返事がなく、その後即死であることが判明したという話です。その後の男性が娘が最期で苦しまなくて・・・の話を来たときに、確かに自分の子供が倒壊した壁の下敷きになつて時間をかけて圧死するのは嫌なんてものじゃないと思いました。次に印象に残ったのは、防災関連の話題が出てきたときに、寝室に外靴を用意する話が出てきたことです。この話を聞いた時に、「先生が言っていたのと同じだ。」と、先生から聞いた話を思い出したからです。他にも三好記者は、スマホの充電器は、情報源のスマホが使えなくなると困るので、必ず持っていくようにとも言っていたのでこの2点を踏まえて対策します。

前の映画を見て、災害に実際にあったひとは周りにたくさんいるから、災害の話を聞いてみようと思ったけど怖くて聞けなかった。でも、今日聞く機会ができる、いろんなことを知れた。でも、災害にあってない人も、こんなに災害の恐ろしさが伝えられるんだと思った。私も何十年先の子にも、災害のことを伝えて、もう二度と悲しいことが起きないようにしたいと思った。

新聞記者の話を聞いて阪神淡路大震災はとても怖いし、いつやってくるかはわからないなと思いました。私も家で家族に地震のこと教えてあげたいなと思いました。

まだ地震のための道具をそろえていなかつたので親と相談してそろえていきたいなとおもいました。新聞記者はとても大変な思いをしてきたんだなと思いました。新聞記者の話は大切にみみにいれときたいです。

三好さんと名倉さんの話を聞いて、自分が気にしていなかつたことなど、阪神淡路大震災のことがよくわかりました。

スマホは、地震が起きたらほとんどつかえないとから、家族などではぐれたときはどこに集合など決めておくのは、大切だとわかりました。

地震はいつくるかわからないので一日でもはやく準備をして地震が起きた時に慌てる事なく、すぐに行動できるようにしたいと思いました。

名倉さんの新聞記事の話を聞いて、お父さんは三女とかわれるなら変わりたいというの聞いて私は、お父さんに三女のぶんも生きてほしいとおもい

三好記者と名倉記者のお話を聞きためになるお話が多かったです。阪神淡路大震災を体験した三好記者の講演は実体験も混じりつつ説得力があり自分もやってみようと思いました。名倉記者のお話は、体験談などの具体的な話はなかったものの、これから起ころるかもしれない地震対策や、取材しに行った人のお話、大切で支えになってくれる言葉はとても好きです。質問でもあった用意しておくものは自分でも用意できそうなものが多くだったので、できるだけ人に頼らず迷惑かけづの精神で生きていこうと思います。今日あった話を家族にも話し、改めて我が家 地震対策を考えすぐに実行し、いつ起きても大丈なようにしておきたいなと思いました。